

確実に進化している元気で勢いのある下関中等教育学校

～グローバル人材に求められる学力・人間力の育成に向けて～

下関中等教育学校 校長 檜垣 英夫

1 はじめに

平成22年3月、6年一貫教育を受けた生徒が初めて下関中等教育学校を卒業して、早くも9年が経過した。当時、教頭をしていた私は、本校の特色の可視化とその発信、そして、生徒の希望進路の実現に東奔西走していた。中でも、本校の教育理念である「地域の特性を生かし、国際化の進展に対応した学校づくり」の具現化に向けて、韓国や中国をはじめとした諸外国の生徒との直接的な交流に力点を置き、実際に海外に出向いて異文化体験をする、そして、海外の生徒に来校してもらい、本校の学校生活の一端を体験してもらう中で日本の文化を理解する、このような形態の交流を推進していた。そのような中、平成20年3月、外務省主催の「日中青少年友好交流年」の一環として、「日本青少年訪中代表団」の県団長として中国を訪問する機会を与えられた。その際、団員であった本校生徒の一人が、中国の胡錦濤前国家主席に、日本の高校生を代表して、挨拶をする機会に恵まれた。その中で、彼女は、「世界中のこどもたちが」という歌の一節を引用して挨拶を締めくくった。それは、「『世界中のこどもたちが一度に笑ったら、空も笑うだろう、海も笑うだろう。』このような世界になれば幸せです。」という言葉であった。これに対して、胡前主席は、「いい話ありがとう。」と笑顔で応じられた。さらに、同年5月、胡前主席が来日された際に、再度、同生徒が出迎え役の一人に抜擢され、東京(早稲田大学)に招待された。彼女は、中国語で、来日に際しての歓迎の言葉を述べるとともに、中国語で書いた訪中の際のお礼の手紙を手渡した。胡前主席は、その場で手紙に目を通され、にっこりと微笑まれた。彼女は、その後、大学で国際文化を学ぶ道を選んだが、このような生徒が中等一期生に在籍していたことを誇りに思っている。本校では、彼女のようなグローバル人材を育てる教育は現在に引き継がれ、「飛翔プロジェクト」の大きな柱の一つとして位置付けられている。

2 本校が力点を置いて推進している6つの教育活動「飛翔プロジェクト」

本校の教育活動が、「飛翔プロジェクト」として体系化され、その推進に向けて、組織的な取組が始まり3年経つことから、改めて本プロジェクトを確認し、今年度の主な活動とその成果を振り返ってみます。

- ① **大学・地域連携**：コミュニティ・スクール導入による大学や地域との連携
- ② **人間教育**：生徒会活動・部活動等による豊かな人間性と主体性の育成
- ③ **学力育成**：6年一貫の効果的な教育課程による学力育成と希望進路の実現
- ④ **国際教育**：国際交流と語学教育の充実によるグローバル人材の育成
- ⑤ **サイエンス教育**：理数教育や講演会の充実等による理系人材の育成
- ⑥ **総合学習「海峡学」**：キャリア教育と探究活動による主体的学習者の育成

①「**大学・地域連携**」では、今年度より、1回生から大学訪問を始めたことは大変意義深いことです。中学校1年生から3年生までの全員が各学年単位で大学を訪問する学校は、日本広しと言えども、本校のみではないかと自負しています。一回生が下関市立大学、2回生が山口東京理科大学、そして3回生が山口大学を訪問しましたが、各学年それぞれ生徒の進路意識の高揚に繋がったものと思います。また、5回生による大学等ゼミ訪問では、将来尽きたい職業を見据えた上で、大学等でどのような分野の学問を専攻したいかを決定するよい機会となりました。

②「**人間教育**」では、且陵祭や体育大会などの学校行事においては、生徒会をはじめ生徒の皆さんが各行事を企画・運営し、本校の校訓でもある「自主」「気概」「向上」の精神を遺憾なく発揮しました。部活動では、前期弓道部の全国大会出場、陸上競技部の個人種目[800m]での県記録更新(全国第4位)、ダンス部の「全国産業教育フェア山口大会(山

口ゆめ花博会場)」におけるオープニングアトラクションでのダンスの披露、ハンドボール部や演劇部の中国大会出場をはじめ、多くの部活動が各種大会で活躍し、日頃の練習の成果を遺憾なく発揮しました。また、歳末募金や海岸清掃などのボランティア活動は、豊かな心の育成に繋がったものと思います。

③「**学力育成**」においては、日頃の授業やそれに伴う課題学習、日々の朝学や早朝・放課後・長期休業中の進学課外授業、そして、6年一貫教育を生かした先取り・速習など、様々な学力向上に係る活動に意欲的に取り組みました。これより、前期課程の学力推移調査や後期課程の進研模試等の外部模試において、その成果が数字に表れました。特に、前期課程では大きな伸びが見られました。また、後期課程の大学等ゼミ訪問を活用した卒業研究では、研究テーマに応じて調査・研究を行い、その発表に向けての資料づくりやプレゼンテーションを通して、主体的で対話的な深い学びがありました。

④「**国際教育**」では、今年も、中国や韓国からの中学生や高校生の訪問団の受入により、両国生徒同士のコミュニケーションを通して、お互いの国の文化の違いや学校生活等を理解し合う中で、心と心の交流が図られたものと思います。特に、韓国慶尚南道からの訪問においては、舞踊交流もあり、異文化に直接触れることができました。また、多くの生徒の皆さんが、夏休み等を利用して、国や県・市主催の研修を含め、様々な海外研修に参加し、語学力の向上をはじめ、多くのことを習得してきました。そして、3回生によるオーストラリア語学研修では、語学学校での研修やホームステイなどを通して、語学の習得のみならず、豪の伝統・文化、習慣などに対する理解を深めました。一方、日本の伝統や文化の理解・継承に向けては、1回生全員が「馬関まつり・平家踊総踊り大会」に参加しました。

⑤「**サイエンス教育**」では、毎年恒例の「おいのやまサイエンスセミナー」で、下関市内の小学生を中心に多くの子どもたちに、実験やデモンストレーションを通して、科学の楽しさを伝えました。また、授業では、実験やアクティブラーニングを通して、単なる知識の習得に終わらず、科学的な思考力を向上させることができたものと思います。さらに、科学の甲子園への出場により、実践的な理数学習に対するモチベーションを一層高めました。

⑥「**総合学習「海峡学」**」では、前期課程による職場体験やジョブフェアへの参加、企業研究を通して、将来就きたい職業について考える契機となりました。また、前期課程から後期課程の5回生まで、系統的・継続的に行っている、大学訪問や大学等ゼミ訪問を通して、進路意識を向上させたものと思います。今年度のキャリア講演会では、西京銀行頭取による「真実を見抜く目」と題して講演をいただき、今後、実社会に出た際に、どのような資質や能力、姿勢・態度が必要になるかなどについて考えるよい機会となりました。

3 おわりに

このような教育活動を展開する中で、本校生徒は、「知・徳・体」をバランスよく身に付けています。とりわけ、すべての教育活動の根幹とも言える「学力の育成」「人間力の育成」においては、6年一貫の効果的な教育課程やきめ細かな学習機会の提供、これを受けての日々の地道な実践努力により、大きな成果を上げており、それが各種学力調査や卒業生の大学入試の結果、或いは、部活動の成績等に反映されています。

グローバル化とAI（人工知能）の進展等が加速化する変化の激しい時代にあって、未来社会を力強く生き抜いていく力が一層求められています。今後も、開校15年目となる本校のさらなる飛躍に向け、山口県唯一の中等教育学校として、将来を見据え、学力育成をさらに推進するとともに、グローバル人材を育てることを通して、時代のニーズに応じた山口県を牽引していく学校として、本校をゆるぎないものにしていきたいと考えています。夢や希望をもって本校を選んで入学した生徒が、志を高くもち、それぞれの夢の実現に向けて、勉学やスポーツ・文化活動に励むことにより、本校が一層元気で勢いのある学校になっていくことを確信しています。